

阪急電鉄(株) 京都本線烏丸駅 照明更新



所在地：京都府京都市下京区长刀鉾町
開業：昭和38（1963）年6月
構造・規模：地下駅、ホーム／1面2線、長さ200m、最大幅6m
乗降客数：約78,000人／日（2010年）
照明更新完成：平成24年1月

S165

大阪・梅田と京都・河原町を結ぶ阪急電鉄京都本線。

京都市の金融・ビジネスの中心地に位置する烏丸駅の照明がLEDに更新され、CO₂排出量とメンテナンスの削減が実現されました。

環境省の「チャレンジ25地域づくり事業」にも選定されたモデル事業

阪急電鉄京都本線の終点・河原町駅の1つ手前の烏丸駅は、京都市の金融・ビジネスの中心地である四条烏丸交差点の地下にあり、地下鉄やバスとの乗り換えも含めて1日約78,000人が利用する交通の要となっています。

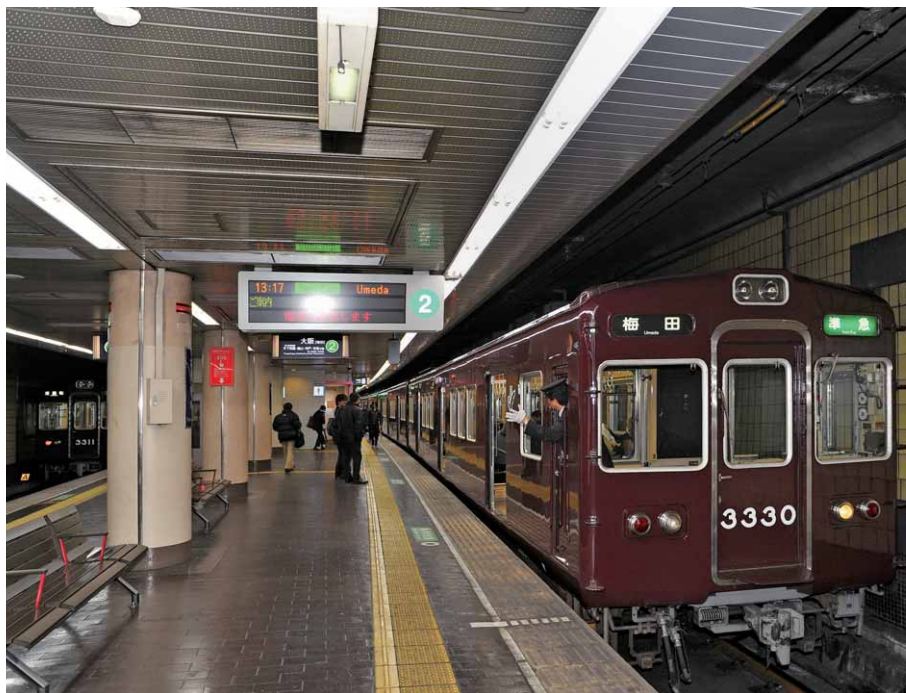
昭和38（1963）年の開業で設備が老朽化したこともあって更新が計画される中、温室効果ガス25%削減の先進的対策について検証を行う、環境省の「チャレンジ25地域づくり事業」にも選定されました。点灯時間の長いプラットホームの照明をLED化してCO₂排出量を削減し、駅を中心とした一体的な低炭素化と事業性を実証して、全国に展開することが目的となっています。

ホーム照明をLED照明に更新し、安全性を確保しつつ大幅な省エネを実現

プラットホームの照明は、既存ではFLR110 W2灯用埋込開放器具およびFLR40W埋込開放器具が合計190台設置されていました。老朽化による今回の改修では、細長い被照面であるホーム端に近い位置にFLR40W2灯用器具（消費電力85W）とほぼ同等の明るさを消費電力56Wで実現する直管形LEDベースライト埋込下面開放器具を合計360台採用。安全性を確保しながら快適性、経済性への検討も行われ、特に安全面ではホームだけのあかりでなく、危険の早期発見を考慮して、列車運転を損なうことなく、線路面へのあかりも十分確保しています。

経済面では、省エネ性能の優れたLED照明に加えて使用初期の過剰な照明を制御する初期照度補正機能を搭載しているほか、点灯時間が長く、設置台数も多いことから簡易調光システム“SESL”を採用し、24時間タイムスケジュール制御によるさらなる省エネを図っています。

これにより、更新前と比較して安全性、快適性を確保しつつ、消費電力は約60%の削減を可能としています。



ホーム端に近い位置の天井にLEDベースライト埋込下面開放器具を連結設置



電車の乗降時に足元に安全・安心な明るさを照射



LEDベースライト埋込下面開放器具2連結



ホームのあかりのほか、線路面のあかりも十分確保



ホーム中央には2連結を中心に配置

主な照明器具一覧			
設置場所	器具名	台数	備考
プラットホーム	直管形LEDベースライト埋込下面開放器具（40形2灯用特注品）	364	LED 消費電力:56W